



若い季節

NO.83

令和3年11月発行

〒520-0044 大津市京町4丁目3番28号 滋賀県厚生会館・滋賀県子ども・青少年局分室内 TEL077-523-5484 FAX077-526-7331
未来にはばたく青少年の健全育成をすすめる民間団体 **滋賀県青少年育成県民会議**

中学生場「私の思い2021」

第1回中学生実行委員会



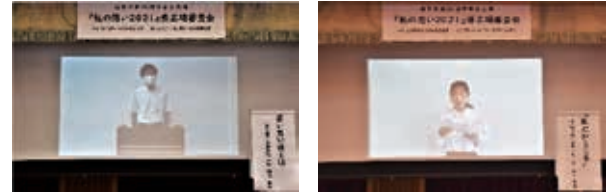
5つの係に分かれての役割分担と当日の運営方法の確認



動画視聴による意見発表審査会



在籍中学校で事前に撮影された12名の意見発表の動画視聴による審査



「滋賀県民総あいさつ運動」顕彰者表彰



滋賀県民総あいさつ運動顕彰者取組事例発表



望月 惇二氏

井上 亮一氏

青少年育成団体関係者等交流研修会



講演
「新型コロナウイルス感染症と人権」
神戸大学 名誉教授
坂元 茂樹 氏

非行防止・環境浄化対策連絡会議

子ども・青少年局長挨拶



県民会議会長挨拶



講話と講演



主な内容

- 滋賀県第24回中学生広場「私の思い2021」 2
- 中学生広場 最優秀賞、優秀賞の発表意見文 3
- 「あいさつ運動感謝状」受賞者一覧、青少年育成団体関係者交流研修会 6
- 市から町から（豊郷町・栗東市） 7
- 非行防止・環境浄化対策連絡会議 8
- 滋賀県青少年育成市町民会議一覧 9
- 正会員（団体）紹介、滋賀県青少年育成県民会議入会のお祝い 10

滋賀県第24回中学生広場「私の思い2021」

令和3年8月21日（土）豊郷町豊栄のさと文化ホールで開催予定の滋賀県第24回中学生広場「私の思い2021」県広場は、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない残念ながら中止いたしました。意見発表をする12名の代表生徒さんや大会運営に当たる湖東地域26名の中学生実行委員の皆さん、活動発表をお願いしていた豊郷町立豊日中学校吹奏楽部の皆さんの活躍する姿を県民の皆様にお届けできず大変残念に思っています。

県広場は中止になりましたが、8月28日（土）滋賀県庁新館7階大会議室において感染予防対策を取りながら第24回中学生広場「私の思い2021」動画視聴による意見発表審査会を開催いたしました。

代表となった在籍中学校の協力により、12名の意見発表の様子を動画で撮影いただきました。審査会では、スクリーンに映し出された動画を審査員に視聴いただき、審査を行っていただきました。

「映像からも伝えたい思いを感じとることができた。」「ホールでこの素晴らしい発表が聴けなくて残念であった。」「来年は是非とも直に発表を聴きたい。」などのご意見もいただきました。今年度は、第24回中学生広場「私の思い2021」意見文集も発行いたしました。

意見発表の審査結果は、下表のとおりです。

審査結果

(敬称略)

賞	学校名	学年	発表者	発表テーマ
最優秀賞	滋賀大学教育学部附属中学校	3年	寺田 愛	自分の考えに対する意識
優秀賞	立命館守山中学校	3年	茂山 獅旺	苦い思い出とは
優秀賞	守山市立守山中学校	2年	木下 愛梨	「私だからこそ」
優良賞	大津市立仰木中学校	3年	栗山 夏妃	家族になれたことの素晴らしさ
優良賞	大津市立粟津中学校	3年	脇野 琴星	人々に伝えたい私の思い
優良賞	甲賀市立甲南中学校	3年	緩利 佳月	コロナ禍から思うこと
優良賞	近江八幡市立八幡東中学校	3年	浅井 奏音	思いを寄せる
優良賞	近江八幡市立安土中学校	3年	北川 ひかる	おばあちゃんから学んだこと
優良賞	東近江市立五個荘中学校	2年	市田 百々郁	桜は何色か
優良賞	豊郷町立豊日中学校	3年	乃一 優澄	「言葉の在り方」
優良賞	米原市立双葉中学校	3年	小山 なの花	感謝の気持ちと私の夢
優良賞	長浜市立西中学校	2年	杉江 真汐	夢のひみつ道具

★最優秀賞は滋賀県知事賞、優秀賞は滋賀県議会議長賞および滋賀県教育委員会教育長賞、優良賞は県民会議会議長賞

第43回少年の主張全国大会 ～わたしの主張2021～

11月14日（日）「第43回少年の主張全国大会～わたしの主張2021～」で、滋賀大学教育学部附属中学校 3年 寺田 愛さんが、全国大会出場者12名に選ばれ、見事「奨励賞」を受賞されました。この栄誉に拍手を送りたいと思います。おめでとうございます。国立青少年教育振興機構では「第43回少年の主張全国大会」WEB開催特設ページが公開されています。

URLは、<https://www.niye.go.jp/services/plan/syutyou/> です。

是非、ご視聴いただきたいと思います。

第43回少年の主張全国大会
～わたしの主張2021～

伝えよう。
わたしの思いを言葉にのせて

「WEB開催」のご案内

開催期間 令和3年11月1日(日)～11月14日(日)

GOALS

全国大会審査結果発表日 令和3年11月14日



滋賀県第24回中学生広場「私の思い2021」県広場
最優秀賞 <滋賀県知事賞>
 第43回少年の主張全国大会出場・奨励賞受賞
 自分の考えに対する意識

滋賀大学教育学部附属中学校 3年 寺田 愛

私は国語のテストが返却される度に毎回必ずある疑問を抱く。それは、「自分の考えを書きましょう」と書かれているのに、なぜ人に採点されないといけないのかということだ。この疑問を持つ学生は多いと思う。

例えば、テストで「この人物の行動から心情を考えて書きましょう」という問題があるとすると。それに対して私は自分なりの考えを導き出して解答する。しかし返却されると、解答例には「この言葉が必要だ」などと明記されている場合が多い。それでは正直なところ、私は自分の考えを否定されているように感じる。広い社会で様々な考えを持った人がいて、それぞれの考えを尊重すべきだと多くの人たちが考えているのに、なぜこのような答えだと決めつけられないといけないのだろうか。このような問題で点を落としてしまった際、私はどうすれば正解できるのかを先生に相談した。すると先生は、「この問題の作問者の意図を考えてみると良い」とアドバイスを下さった。もしそうだとすれば、なぜ、「自分の考えを書きましょう」と書かれているのか、この問題を通して大人たちは私たち学生に何を伝えたいのかを自分なりに考えてみた。

このような国語の問題で間違えてしまった時、私は真っ先に解答を確認する。それは自分では思いつかなかった考え方を知るためだ。つまり、意識して自分とは別の視点から物事を考えようとしている。もちろん様々な考えを持つ人がいるため、全員の考えに納得し共感することは難しい。しかしこの問題を通して、作問者、つまり他の人の考えを読み取る力が今の学生に試されているのではないだろうか。

そこで私は、「2020年から2022年にかけて小、中、高校の学習指導要領が変わる」というニュースを思い出した。今の学生に何を求めているのかを知るために文部科学省のホームページを

調べた。そこには「社会と連携、協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質、能力を育む」ことが「よりよい社会を創る」ための方法として掲げられていた。

学習方針から、私は自分の意見を持ちながらも相手の意見も踏まえて他者と連携していくことが、現代社会に求められていると考えた。私は今まで相手に左右されずに自分の意見を積極的に持つことばかりを重視してきた。しかし、自分の意見にこだわりすぎるのもよくないのだと教えられたように感じた。読解文でいうならば、文章中の登場人物は自分とは別の人間であり、私たちは作問者が読み取った彼らの心情を推し量る必要があると思う。それは、全く何もない状態から考えることとは異なる。国語の問題文では自分の意見と明記されているが、実際には相手の意見への共感をふまえた自分の意見を書かなければいけないと思う。

つまり、私たち学生が今の社会に求められていることは自分の考えを伝える際に相手の意見に共感する気持ちを持つことだ。相手に納得してもらうことが目的ならば自分の考えをただ伝えるのではなく共感してもらうことが大切だ。そのためには相手の考えを予想しながら自分の意見について考え直す必要があると思う。

多文化社会におけるグローバル化が進む中、自分には理解できない考え方に直面することが将来多くなっていくだろう。だからこそ相手に伝わる伝え方を、友達と話す時など日常で意識する必要があると思う。それによって、一人一人の考え方に対する意識が変わり、様々な人が共存できる社会になっていくのではないだろうか。

< 出典 > 文部科学省ホームページ

「学習指導要領改訂の考え方」



滋賀県第24回中学生広場「私の思い2021」県広場 優秀賞 <<滋賀県議会議長賞>>

苦い思い出とは

立命館守山中学校 3年 茂山 獅旺

みなさんには、思い出したくない苦い思い出が、あるだろうか。例えば、軽い一言で友達を傷つけてしまったとか、ふざけて何かを壊してしまったとかだ。こういうのは、突然何の前触れもなく、ぱっと思い出して思わず奇声を発しながら、頭をかきむしりたくなる。僕には、思いつく限り十個ほどそんな思い出がある。その中で1つだけここで紹介しようと思う。

3年前の12月、中学受験を控える僕は、毎週日曜日電車に乗って、京都まで塾の勉強会に通っていた。朝の10時から昼食の時間と休憩を挟んで夜の6時まで。当時小学校6年生だった僕にはとてもきついスケジュールだった。

ある日曜日のことだ。その日の勉強会の内容は、難関校の過去問を実際に解いてみるというものだった。先生もいつになく解説に力が入り、僕が塾を出たのは6時半過ぎだった。普段なら乗れたはずの電車に乗り遅れ、次の電車は7時過ぎ。30分程立ち続けた僕の疲れは、勉強会の疲れと重なり、限界まで達していた。電車のドアが開いた瞬間、すぐさま飛び乗り、空いている席を血眼で探した。あった!あそこの4人席、前2席が空いているじゃないか!席を見つけた僕はうれしさのあまり、小走りでも4人席に向かった。2席はサラリーマンらしき男の人と、若い女の人が座っていた。僕は空いていた2席の窓側に座り、背負っていた大きなリュックサックを横の席にどすん、と置いた。誰かが大きなせきをした。電車は進み、次の駅に着いた。会社帰りの人がたくさん乗ってくる。僕がいた号車は、すぐに満員になった。僕はしんどかったなあ、とか明日学校やだなあ、とか考えて、のん気に外を眺めていた。

「おい、あんた。」

一瞬何が何だか分からなかった。どうやら自分の座っている4人席の横にいた背の低いお爺さんが言ったようだ。自分に言われていると気付かず、しばらく頬杖をつきながらこれまで通り、外を眺めていた。

「聞いてるんか。鞆置いてるきみや。」

そこで自分のことだと気付いた。見上げるとお爺さんが真っ赤な顔をしている。え、何この人。僕に言っ

湧いてきた。悪びれる様子なく、お爺さんを見つめた。その直後、頭の上に雷が落ちたような衝撃と同時に、お爺さんの怒号が浴びせられた。

「はよ鞆、どけんかい!座りたい人がたくさんいる中で何鞆で席ととんねん!」

びっくりした。何でそんな大声出すの。恥ずかしくないのかな。周りを見た。そこで、気付いた。お爺さんに向けられていると思った視線は、全て自分の方を向いていた。前に座っていたサラリーマンの人も。その横の人も。みんなのにらみつけるような視線は、全て自分に集中していた。かわいそうなどと、思うような人は一人もいなかった。

「恥ずかしい」

やっと気付いた。自分が周りに与えていた不快感に、迷惑に。自分がそのことに気付かなかったことが、一番恥ずかしかった。その後、お爺さんや周りの人に謝って鞆をどけた。結局、僕が鞆を置いていた席には、誰も座らなかった。

この経験をふと思い出すことが何回もあった。これからもあるだろう。苦しい。だが、あることに気付いた。それは、ついこの前、通学バスに乗った時のことだ。その日は混んでいて。どこか空いている席はないかと思渡すと、二席のうち一席を鞆で使い、もう一席に座る生徒が目に入った。迷惑だな。気付いてないのかな。恥ずかしいで。そう考えた自分に驚いた。三年前、自分のしていたことと同じ。それに嫌悪感を抱いた自分は、前よりちょっとでも成長できたのではないか。それは、あのお爺さんのおかげ、あの苦い思い出のおかげだ。

僕は注意した。その生徒は恥ずかしそうに鞆をどけて、自分の膝の上に置いた。このことがこの人にとって、苦い思い出になればいいな、と思った。

苦い思い出は成長する源だと僕は考える。「失敗は成功のもと」と少し似ているかもしれない。しかし、苦い思い出は、失敗と違って、積極的につくりに行くものではない。苦い思い出とは、自分の犯した過ちについて考える時間を与えてくれる、お助けツールみたいなものだからだ。苦い思い出を自分へのチャンスと考えればもっと成長できるのではないだろうか。



滋賀県第24回中学生広場「私の思い2021」県広場 優秀賞 ≪滋賀県教育委員会教育長賞≫

「私だからこそ」

守山市立守山中学校 2年 木下 愛梨

皆さんは喋れることが普通だと思っていませんか。私は吃音症があります。他の人と同じ様にスラスラ喋ることが出来ません。なので、人と喋るのが苦手な自信がありません。私と同じ悩みを持っている人が皆さんの中にもいらっしゃるのではないのでしょうか。私はそんな人達を笑顔にしたいです。なぜなら、私は喋れない事の辛さを知っているからです。

私は初めから喋れないわけではありませんでした。昔はよく喋る子だったそうです。しかし、2歳の時にお母さんがベビーカーごと階段から落ちました。その時から私は上手に喋れなくなってしまいました。ですが、わたしは、小学1年生まで自分が普通に喋れていない事に気付いていませんでした。そして小学2年生の時、班で本を読み合う事がありました。その時クラスの男の子に

「なんで愛梨ちゃんはスラスラ喋れないの。喋り方変だね。」と言われてしまいました。その頃から私は自分の喋り方をからかわれ気にする様になり、自分の喋り方に自信がなくなってしまいました。しかし、小学3年生の時、担任の先生が言葉の教室を紹介してくれました。言葉の教室の先生はズタズタになっていた私の心を優しい言葉で包み込んでくれました。

私はこの経験から言語聴覚士になりたいと思いました。なぜなら、私は自分の経験を活かして私と同じような思いをしている人達と関わりたいと思ったからです。私の経験上、感じてきたことですが、小学生と中学生では辛さの種類が違います。小学生は人の事をあまり考えず素直に発言する年頃です。素直に発言するのは良い事でもありますが、私達のような人にとってはとても辛い事です。吃音症は言い返すのも難しく、なぜ言えないのかを説明しようとしても、からかわれた恥ずかしさや辛さで声がでなくなります。

中学生では、現実を突きつけられるような辛さです。小学生の頃は気にしていなかったことも

中学生になると急に自分と相手を比べてしまいます。なぜみんなは普通に喋れるのに自分はこんな喋り方しか出来ないのかと不安になってしまいます。さらに、これは私個人の意見ですが、自分が他の人と違う喋り方しか出来ないと分かっているからこそ発表している時やみんなの前で音読をする時など、自分のせいで時間が長引いてしまうという不安やプレッシャーが生まれます。これは中学生や高学年だからこそその怖さだと思います。

そして、私が一番私の様な思いをしている人達にしたいくない事が1つあります。それは同じ症状を持っている人同士を比べない事です。あるとき、私は知り合いの人とテレビを見ていました。すると、テレビに私と同じ吃音症の人がでてきました。私はその人に

「愛梨はまだ吃音症が軽くて良かったね。まだ楽だね。」

と言われました。私は「まだ楽」と言われた事がとてもショックでした。楽な人なんていません。症状が軽いからこそその辛さ、重いからこそその辛さがあります。私はその人が少しでも辛いと思うならそれを「まだ楽」などと絶対に言いたくないと思いました。それは私だからこそ分かる辛さだと思うので、私は人と比べる事は絶対にしたくないと思います。

私は私の力で私と同じ思いをしている人達が笑って過ごせる社会にしていきたいです。だから、私は言葉の教室の先生にもらった事をつなげていきたいです。

今回、私がここに立っていただけるのは私を代表に選んでくれた人達のお陰です。この作文を書いた時は人前で喋るなど想像もつきませんでした。私が人前で喋ろうと思えたのは仲間の声援のお陰です。私はこれからも、安心して喋れる社会と歩んでいきたいです。機会をくださり本当にありがとうございました。

滋賀県民総あいさつ運動感謝状受賞者一覧 (敬称略・順不同)

令和3年度総会(5月21日)の席上、長年にわたりあいさつ運動に取り組んでおられる下記の5名と5団体の皆様に滋賀県青少年育成県民会議児玉会長から感謝状が授与されました。

顕彰者(団体)名	活動内容	顕彰者(団体)名	活動内容
青少年育成大石学区民会議 (大津市)	42年間の長きにわたり青少年の健全育成活動に取り組んでこられた。毎月1日・15日の通学路で「あいさつ運動」「見守り活動」は、子どもたちとのつながりを築くコミュニケーションの場ともなっている。 また、様々な地域の団体とも連携しながら地域ぐるみで積極的に事業を展開されている。	稲枝地区青少年指導員会 (彦根市)	三小学校区で23年の長きにわたり継続して「登校時のあいさつ運動」に取り組んでこられた。稲枝東小学校区では毎月第1第3水曜日に3箇所、稲枝西小学校区では毎週金曜日学校前で、稲枝北小学校区では毎月第1第3火曜日に学校前で「あいさつ運動」「見守り活動」を継続して取り組まれている。
小谷学区安全協議会 (長浜市)	発足以来16年の長きにわたり「あいさつ運動」「安全見守り活動」に取り組んでこられた。 また、横断歩道で止まってくださったドライバーに対しても礼儀正しくあいさつができるよう助言をするなど、誰にもしっかりとあいさつができる子どもの育成に尽力されている。	塩津小PTA (長浜市)	登下校の「安全見守り活動」や「あいさつ運動」に全会員が参加して取組を続けておられる。 また「あいさつ運動当番日誌」にあいさつの様子や危険な事象を記入、子どもたちに紹介し、注意喚起や励ましに役立ておられ、元気なあいさつの定着に大きな効果を上げられている。
井上 亮一 (近江八幡市)	20年間の長きにわたり、毎朝地元の小学校校門前で「あいさつ運動」を実施。子どもたち一人ひとりに親しみを込めて「あいさつ」と「声かけ」を続けておられる。 こうした地道な活動が、地域の子どもの健全育成と安心・安全な地域づくりに大きく寄与されている。	中島 四郎 (草津市)	18年間もの長きにわたって、毎朝通学路や校門で子どもたちや地域の方にあいさつ運動を続けてこられ、今では、保護者や地域の方にも広がり、子どもたちが元気にあいさつする姿が見られる。また、通学路や校舎回りの清掃活動にも取り組まれ、安心・安全な地域作りに貢献されている。
焰魔堂子ども会 (守山市)	「御神輿祭」の活性化の一環として「焰魔堂あいさつ運動」を長年にわたり取り組まれ、児童の登校時に物部小学校東交差点前であいさつ運動が展開され、「おはよう」の声かけをされている。近隣自治会とも連携し夏場はほぼ毎日あいさつ運動を展開されている。	竹内 しず子 (栗東市)	15年間もの長きにわたり大宝西小学校のスクールガードとして毎朝「あいさつ・声かけ活動」「交通安全見守り活動」を続けておられ進んであいさつする習慣が定着した。また、地道な活動が他のボランティアの参加につながり、地域での「あいさつ運動」「見守り活動」へと広がっている。
園 泰彦 (湖南市)	9年間もの長きにわたり、交通量の多い交差点を横断する子どもたちの安全確保のため、毎日登校・下校の時間帯に自主的に「あいさつ運動」や「交通安全見守り活動」を実施されている。「見守り・あいさつ」を通して注意を喚起し、気持ちのよいあいさつが児童・生徒に定着するなど安心・安全に寄与されている。	望月 惇二 (湖南市)	11年間もの長きにわたり、毎朝、地域内の通学路で、児童・生徒にあいさつ運動を実施し、交通安全見守り活動をおられる。誰もが知る地域の顔として青少年の健全育成に寄与されている。また、学校や地域のあいさつ運動の要として取組の推進に尽力されている。

青少年育成団体関係者交流研修会

令和3年度滋賀県青少年育成団体関係者交流研修会が、5月21日(金)の午後滋賀県庁新館7階において開催されました。この研修会は、青少年育成市町民会議および関係機関・団体等の役職員が一堂に会して講演、事例発表や情報交換を通して地域活動の一層の推進を図ろうとするものです。

今年も、「滋賀県民総あいさつ運動」を最重点課題として取り組んでいます。その事例発表と青少年育成に関わる私たちにあって、これからの次代を担う青少年を育成する上で心がけなくてはいけないことについて研修会が開催されました。

取組事例発表

- ①『ボランティアを思う』 湖南市 望月 惇二 氏
・あいさつ運動や子どもたちへの見守り活動、これからのボランティア活動について、貴重なお話をいただきました。
- ②『あいさつは心と心をつなぐ』 近江八幡市 井上 亮一 氏
・あいさつ運動や学校・園への様々な支援、ボランティア活動について映像をまじえながらお話いただきました。

講演

『新型コロナウイルス感染症と人権』

(公財)世界人権問題研究センター所長 神戸大学名誉教授 坂元 茂樹 氏

- ・講演では、新型コロナウイルス感染症の現状から始まり、コロナ差別とそのメカニズム、ハンセン病問題に及び、感染症の問題については「正しい知識をもって正しく恐れる必要がある」とお話されました。また、コロナ禍であっても、いかなる差別や偏見は許さない強い意志とコロナウイルスを恐れるあまり、人を思いやるというごく当たり前の人間性が失われてしまわないよう行動することが必要であると締めくくられました。

市から
町から

「地域の力で子どもをまもり、はぐくむ」

豊郷町青少年育成町民会議

豊郷町青少年育成町民会議は、「地域の力で子どもをまもり、はぐくむ」を目標に、次の3点を重点活動として子どもたちが安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいます。

- 1 子どもの安全を守る地域活動の推進
- 2 豊かな心を育む家庭教育の展開
- 3 健全育成のための地域活動の推進

【主な取り組み】

○あいさつ・声かけ運動標語募集

町内小・中学校の児童・生徒の皆さんに標語を募集しました。当町民会議の審査員で優秀な作品を選定し、7月に開催された夏の青少年育成大会にて表彰を行いました。入賞作品は、今後1年間青少年関係の文書を送付する封筒のデザインとして使用させていただきます。

○青少年育成大会

昨年度は、夏・冬両大会が中止となりましたが、今年度は7月14日（水）に、夏の青少年育成大会を開催しました。あいさつ・声かけ運動標語の入賞作品発表・表彰、中学生広場「私の思い2021」町代表作文の発表・表彰、講演という構成で、多くの青少年関係者と町民の方々に参加していただきました。

○初発型非行防止・防犯パトロール

7月の「青少年の非行・被害防止滋賀県強調月間」に合わせて、7月と8月の夏休み期間中に夜間の青色防犯パトロールを実施しました。

○体験活動（とよっ子探検隊、さとっこふれあい教室）

町内の小学校から参加者を募り、4～6年生をとよっ子探検隊、1～3年生をさとっこふれあい教室として体験活動を計画・実施しています。とよっ子探検隊では、銅鐸博物館ではにわづくりを行い、さとっこふれあい教室では、オリジナルしおりづくりを体験してもらいました。

○「今 私のがんばっていること」作文募集

町内小・中学校の児童・生徒が、今自分自身が一生懸命取り組んでいること、打込んでいることについての作文を募集します。10月から募集し、来年2月11日の社会教育大会にて表彰予定です。

○令和3年度特別記念誌

昨年度はあいさつ標語や中学生広場意見作文、「今 私のがんばっていること」作文の優秀作品を掲載しました。今年度も町民の皆様幅広く知ってもらうために記念誌を作成します。



夏の青少年育成大会



とよっ子探検隊



さとっこふれあい教室

すこやかに 伸びよう 伸ばそう 栗東の青少年

栗東市青少年育成市民会議

栗東市青少年育成市民会議は、『すこやかに 伸びよう 伸ばそう 栗東の青少年』をスローガンに、青少年を応援する地域づくりや豊かな心を育む家庭づくりを目指して活動を推進しています。

新型コロナウイルス感染症の関係で、今年度も多くの事業が中止になっていますが、開催方法を検討しながらできることを精一杯行っています。

【主な活動】

○子ども110番通報訓練

子ども達が不審者に会ったときの対処方法の訓練を、市内の保育園、幼稚園、小学校において実施していただいています。訓練の呼び掛けと啓発用のチラシやDVD、寸劇機材の貸出を行っており、身近な先生たちによる寸劇等で、子ども達は「きょうはいかのおすし」を真剣に学んでいます。

○愛のパトロール・愛の声かけ運動

お父さん、お母さん、地域の方が「愛のパトロール」のタスキを掛けて、「地域の子どもは、地域で守り育てる」を合言葉に地域の青少年の健全育成を図るため、子どもたちの「見守り」「愛の声かけ」のパトロールを実施していただいています。

○青少年育成ミニ会議

「地域の子ども達と向き合い、地域の子ども達を温かく見守ろう」という気持ちで、身近なできることから行動していく、そんな関係づくりを構築する機会として「ミニ会議」を開催していただいています。コロナ禍の中でも、19の自治会で計画していただいています。



○中学生広場「私の思い2021」栗東市大会

7月3日（土）栗東芸術文化会館さきらにて、入場者を限定しての〔審査会〕として開催しました。多くの方に中学生達の熱い思いを聴いていただけなかったのが残念です。しかし、意見発表していただいた中学生12名は自分の思いをしっかりと発表し、私達に大きな感動を与えてくれました。

○栗東市青少年育成大会：令和4年1月22日（土）栗東芸術文化会館さきらにて

中学生達の熱い思いを多くの方に聴いていただきたく中学生広場代表4名による「意見発表」と、昨年度は中止で発表していただかなかった中学生、高校生による「演奏」と「演奏」を予定しています。



「青少年の非行・被害防止滋賀県強調月間」推進事業 非行防止・環境浄化対策連絡会議

令和3年7月6日（金）滋賀県庁新館7階大会議室において、令和3年度非行防止・環境浄化対策連絡会議を開催しました。本会議では、「青少年非行・被害防止滋賀県強調月間」推進事業の一環として実施しています。今年度も新型コロナウイルス感染予防対策を図りながら、研修を深めることができました。



●講話 「県内の少年犯罪の現状及び薬物犯罪について」

滋賀県警察本部生活安全部少年課長 民徳 隆 氏

- ・非行少年等の統計資料推移から、検挙・補導人員は減少傾向にあります。薬物犯罪の増加、インターネットやスマートホンの普及に伴う福祉犯の加害者の増加といった傾向が見られることをご指摘いただきました。特に、薬物犯罪については、「有害性」「依存性」「耐性」の薬物3要素、新たな視点から薬物の恐ろしさについてこれまでの貴重な経験をもとに、具体的な事案に基づきお話いただきました。



●講演 「栗東市少年センターの取組から」～関係機関との連携を大切に～

栗東市少年センター 所長 川波 重和 氏

- ・少年センターの役割、補導委員会や草津警察署生活安全課との薬物乱用防止、万引き防止の啓発についてきめ細かな取組、特に小中学校への積極的な働きかけをわかりやすくお話いただきました。具体的な事例から青少年の状況や相談支援、学校・職場・地域・家庭が連携した支援体制、一元化した市のネットワーク窓口等について分かりやすく講演いただきました。



●講演 「生徒指導上の諸課題への対応について」

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

生徒指導・いじめ対策支援室 主幹 河地 誠 氏

- ・国や県の資料データにより、問題行動の捉え方、不登校に対する地道な取組、いじめに対する新たな捉え方による早期発見・未然防止など近年の動向などわかりやすくお話いただきました。特に子どもの自殺については、その特徴や自殺の連鎖、コロナ禍における影響の大きさについて様々なデータをもとに講演いただきました。

